

## 第 35 回 山梨実技セミナーin 山梨 基礎+スキルアップコース 開催報告

### 【開催目的】

1. 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
2. 基本的な食事介助方法を習得し、食事ケアの充実をはかることができる。
3. 認知機能の低下がある人に対する、基本的な食事介助技術に関する知識・技術を学ぶ。
4. 食事介助が困難とされる場合の演習を通し、根拠ある介入方法のヒントを得、実践に繋げることができる。
5. グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、個々の受講目的に沿ったスキルアップが図れ、自施設においての指導に繋げることができる。

### 【開催日時】

平成 28 年 9 月 18 日（日） （基礎コース） 9 時 00 分～12 時 30 分  
（スキルアップコース） 13 時 30 分～16 時 30 分

### 【開催場所】

公益財団法人 山梨厚生会 塩山市民病院

### 【プログラム】

（基礎コース）

1. 口から食べることをサポートするための包括的スキル （KT バランスチャートの活用と支援について）

#### 【講義】

2. 安全に経口摂取につなげるための姿勢調整およびベッドサイドスクリーニング評価【講義】
3. ベッド上での基本姿勢とベッドサイドスクリーニング評価【演習】
4. 五感を活用した食事全介助、一部介助【演習】

（スキルアップコース）

1. KT チャートにおける認知機能の評価について【講義】
2. KT バランスチャートを活用した事例紹介～在宅復帰への症例について～【講義】
3. 認知機能低下のある人の安全・安楽、効率的な食事介助【演習】
4. セルフケア能力を高める食事介助技術【演習】
5. 困難場面への対応【演習・ディスカッション】
6. 全体まとめおよび質疑応答

### 【アドバイザー】

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者

金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	摂食嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
甲斐明美	調布東山病院	摂食嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
黄金井 裕	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事 日本医科大学多摩永山病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
砂山明子	都立駒込病院	摂食嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
大石朋子	筑波大学大学院人間総合科学研究科	看護師 KTSM 実技認定者
上野美幸	山梨市立牧丘病院	看護師 KTSM 実技認定者
望月優子	塩山市民病院	看護師
中村里花		看護師

### 実技演習① (ベッド上での基本姿勢)

ベッド上での食事を食べるための、基本的な姿勢の取り方を、身の回りのクッションや体交枕、バスタオルを用いて実践を行いました。背抜き・尻抜き・足抜き、あごの位置等の注意点を意識し、患者さん役を体験していただくことで、実感し言語化してもらう中で共有することが出来ました。



### ベッドサイドスクリーニング評価

食事を食べるための、改訂水飲みテスト・フードテストを行いました。五感を使うことの重要性と関わり方の実際を行いました。なぜ、30度リクライニング角度なのか？その根拠と必要性を説明し実践しました。



### 実技演習② (ベッド上での食事介助)

視覚情報入力により食物認知を高める、適切なスプーン操作、対象が食べやすいスピードやタイミングでの介助を実践しました。また、肘やテーブルの高さを調整し、手を包みこむようにアシストを行うことで、セルフケア向上に繋がる介助を実践しました。



### 実技演習③（認知機能低下のある人の安全・安楽、効率的な食事介助）

基礎コースでの、ポジショニングやスプーン操作方法、基本的な食事介助の振り返りをしながらのスタートです。

ここでは、受講生さんに実践していただき、食事介助方法を行いました。五感を使い認知機能を高める大切さ、部分的な調整でのポジショニングや食事介助の違いを体験した患者役からのフィードバックをもとにグループで、共有しました。

認知機能低下のある（覚醒不良、開眼アシスト、開口困難、閉口困難の場合）患者の想定をし、どのようにするか、具体的な実践方法を行っていきました。



### 実技演習④（セルフケア能力を高める食事介助技術）

受講生さんが持ち寄った困難事例を再現しました、事例の患者になりきっていただき、普段の関わり方と、実習③での手技を取り入れて、まずは、グループで検討体験することで、イメージ化しやすく、繰り返しの手技も実践することで、体で覚えていただきました。



### 実技演習⑤（困難場面への対応）

各グループで、実際の困難事例場面の体験を行いました。普段の介入方法から、どのように改善したら、より食べやすくなるのかを受講生さんに、意見を出し合っていていただき、いろいろと一緒に検討していきました。そしてグループで共有し、どのようにしたら良いのか、今後の実践に繋がる具体的な介入方法を体験しました。



在宅での困難事例の患者さんになりきってもらっての演習では、家にあるものの工夫だけではなく、資源を生かしたサービスの調整をすることも大切な1つだと学びました。



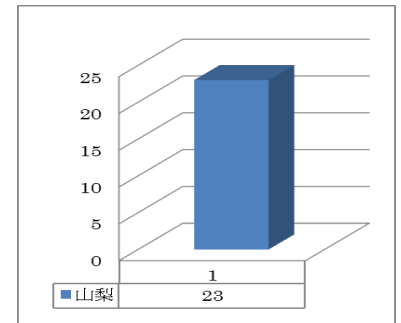
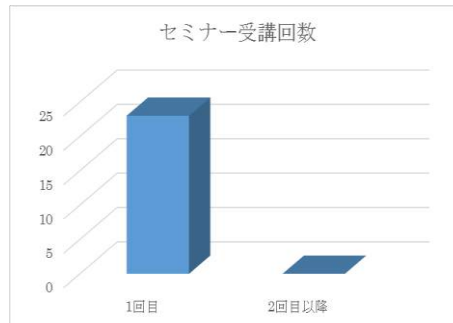
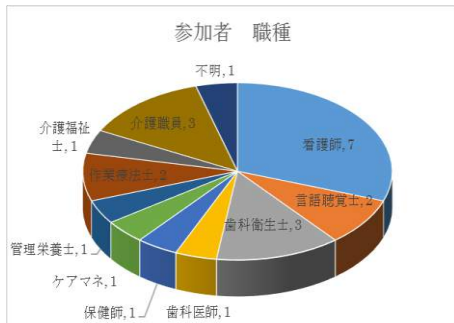
## 【アンケート結果】

### Q1、職種・勤務先、勤務先の都道府県名

\*都道府県にグラフにつきましては、県外から参加で1日受けられた方はスキルアップコースに含まれています。

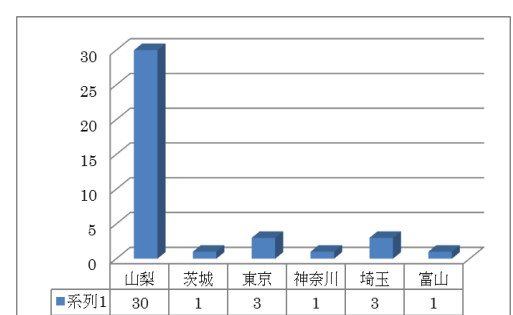
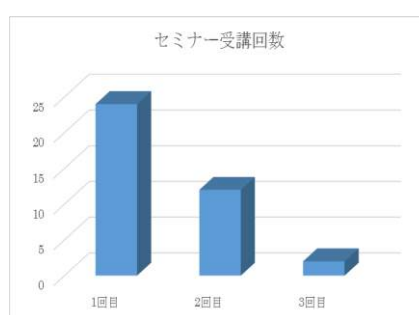
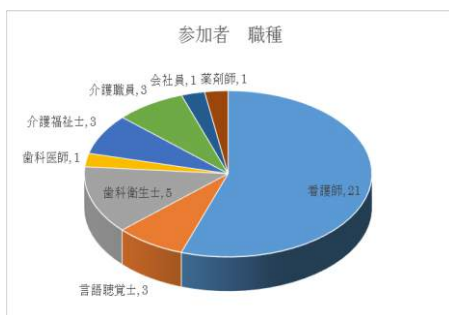
#### (基礎コース)

(基礎のみ受けた方のアンケート回収は23名、そのうちスキルアップコースに続けて出た方は17名)



#### (スキルアップコース)

(基礎から受けた方+スキルのみ参加のアンケート回収 38名)



### Q3 スキルアップにつながりましたか？

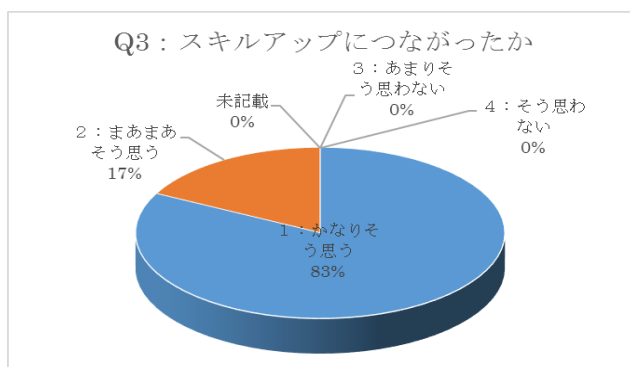
- ・姿勢、タイミング、視線など介助してもらう側に実際になると、何が不快か、何が楽か等良く分かりました。
- ・毎日介助して食べていることが、ただ口に運ぶだけの事であったことを反省します。
- ・このような研修に今まで参加したことがなく、今回非常に分かりやすい内容であったと感じました。
- ・食べることはやはり奥深いです。
- ・実技を通じ、自分の変なクセも見ていただけで良かったです。
- ・食べられる方を、しっかり見極めることが大事だと思いました。
- ・興味がさらに沸いて楽しかったです。
- ・介助する/されるの両方を体感することで、とてもイメージ出来ました。
- ・実践を交えた広義だったので、こういう場合はどう対応したら良いか？力加減ほどの位が良いか？というのを患者役/介助役両面から学ぶことができました。
- ・実際に仲間と共有し、日々の業務につなげられたらと思います。
- ・食べることについて再度考えさせて頂きました。利用者となり、食べることについて勉強になりました。
- ・姿勢のとり方。
- ・細かく指導して頂けて良く分かりました。実感して分かりました。

- ・実際にやってみて、体験して納得しました。
- ・短時間でしたが、スキルアップになったと思います。短時間でもこれだけの知識を得ることが出来ました。

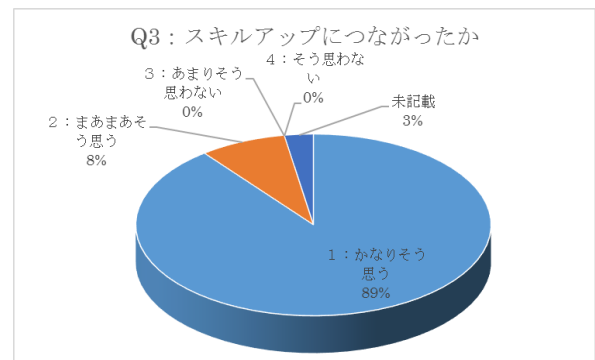
### Q3(スキルアップコース)

- ・ポジショニングについてかなり勉強になりました。バスタオルを使って患者にとって安楽な方法を選択する必要が良く分かりました。
- ・今までやってなかったことに気付いた
- ・私の介助は患者さんの手になっていないことが本当に良く分かった
- ・知識、技術が得られたと思います
- ・姿勢、技術について、実際に介助される患者の立場になって実感できました。
- ・スプーン操作など食事介助が全然できていないのがわかりました。ただ2度目で見通しが良くなったので現場で実践していきたいと思います。
- ・目からウロコ。知り得た情報が多かった。ポジショニングは実践して学ぶことが多かった。
- ・自分の足りない部分がみえました。
- ・具体的質問を聞くことができた。
- ・普段行っている技術不足に気付いた。もう一度見直す必要がある。
- ・ベッドの角度による患者の視界への配慮を踏まえたポジショニングの重要性、安楽な体位の確保の必要性など環境への気配りを考えられるようになりました。
- ・今までにやってきた良いこと、悪いことを根拠を含めて知れた。また、新しい知識を得ることができた。
- ・今までやっていた間違いが良く分かった。
- ・今まで自分がやっていた介助方法について反省した。
- ・ポジショニングの大切さ、実際の介助（昔、実母にしていた）方法が、危険を伴っていたことを改めて感じました。正しい安全な方法は大切。
- ・昨年、受講した基礎も忘れていたことが多く改めて勉強になりましたし、困難例についてグループで検討出来て良かった。
- ・普段行っている食事介助が患者さんのもつ力を伸ばすことの妨げになっている点があったのではと思う点があった。患者経験をすることで、どんな工夫をする良いのか、実体験することができた。
- ・実技が実際の患者さんをイメージしながらできたので、より理解しやすかった。
- ・勉強不足なのが十分にわかったので、もっともっと勉強していきたい。
- ・目線、机の高さ、スプーンの使い方、入居者さんの違いでのやり方に間違い、方法がよくわかった。

#### (基礎)



#### (スキルアップ)



#### Q4 実践の場で活用できると思いますか？

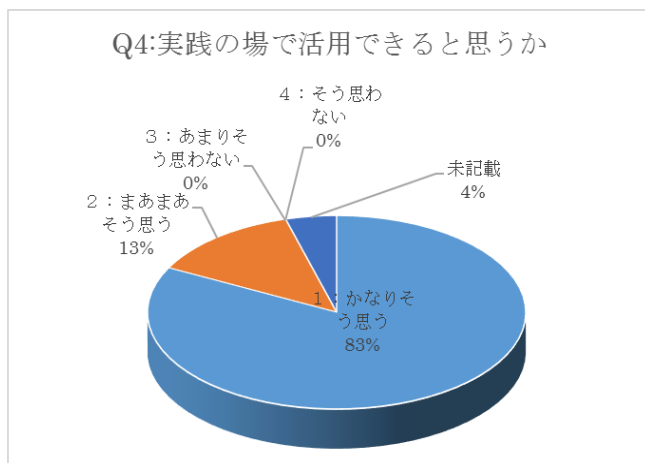
- ・今まで自己流で食事介助をさせて頂いてましたが、声掛け、角度など今日教えていただいたことを何度も復習、確認して、元に戻らないよう教えて頂いたことを身に付けていきます。
- ・毎日介助して食べていることが、ただ口に運ぶだけの事であったことを反省します。心を込めていきます。
- ・就業場所において。
- ・自分の親の介護、周囲へのアドバイス。
- ・臨床に活かしていきたいと思います。
- ・介助だけではなく、航空ケアをするときにも活用できる場所があると思いました。姿勢など。
- ・タオルの入れ方、姿勢、ベッド上の角度。
- ・細かい点がたくさんあり、見直すことが出来ました。
- ・まず職場でフィードバックし、実践で行う必要があります。
- ・摂食嚥下に問題を抱えた患者様が多く入院されているので、その方たちが安全に楽しく食事を楽しめる環境づくりのきっかけとして活用したいです。
- ・肺炎治療中の方や、ベッド上で摂取している方に活用できそう。ただ自己流、知識不足しているNs、をどう変えていくのか。
- ・姿勢について利用者ひとりひとり確認し、食欲など、食に対して評価を活用し再度検討したいと思いました。
- ・スプーン使い方、左手（非利き手）での介助方法。
- ・クッションとか枕とか姿勢を保つものが少ない。
- ・日常の介護で。
- ・毎日の食事介助の場面で、明日から早速実践してみたい。また仲間にも伝えたいです。
- ・患者さんの食事介助。
- ・全介助の方や一部介助の方へのベッドでの介助に活用できます。

#### Q4 (スキルアップコース)

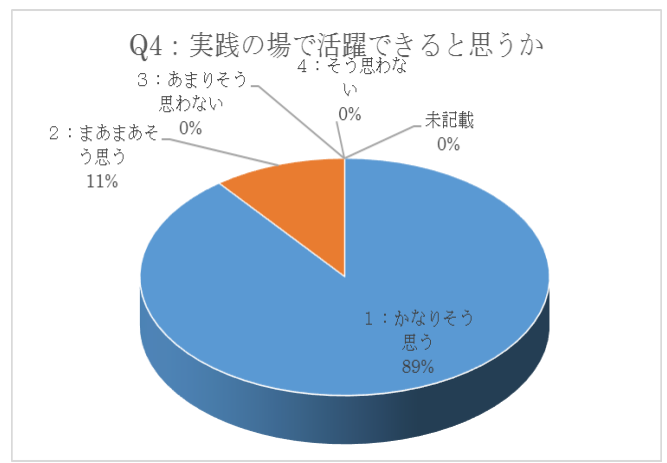
- ・開口しない方へのアプローチはさっそく実践してみようと思いました。
- ・覚醒不良の患者に対しての援助方法についてとても勉強になった。当院のSTの介入方法はとても時間をかけ行っていると、今日の演習を見て改めて感じました。
- ・ポジショニングの方法を工夫していこうと思った。
- ・具体的な症例に対しての指導だったため良かった。
- ・正しいスクリーニング技術、ポジショニング、自食への介助方法（手の添え方）、困難症例への対応（開閉口が困難）。
- ・病棟で、食事やポジショニングが、ひとりひとりの患者さんに合った方法で行っているか見直したい
- ・療養様に活用できると思います。担当のメンバーと一緒にアセスメントを行って、ベッドの角度とかポジショニング方法を検討していきたいです。
- ・在宅での食事介助場面で、評価方法について実践していきたいです。
- ・ベッド上や車椅子などにおける食事介助。
- ・食形態、角度調整やアセスメントと原因を探求する重要性を再確認しました。
- ・母の介護
- ・食事の前の姿勢を作る重要性がわかりました。
- ・現場でのアセスメントや食形態、経口摂取への援助で活用できる。
- ・側臥位で摂食する場面が今まであったが仰臥位、左右のバランスを考えた体位で摂食できるように関わりたい。

- ・職場が80歳代～100歳代の患者様が多く、認知機能の低下や全身筋力の低下した患者様に活用する機会が多い。ポジショニングや介助の仕方を教わったことを振り返りながら実践していきたい。
- ・食事介助の場面で姿勢、スプーンの使い方、量、スピード等、実践していきたいと思います。
- ・今までなぜそうなるのかわからないことだらけだったので、理由を探すポイントが見えてきた感じがする。
- ・ムセがあって、食事があまり形態アップにつながらない患者さんの支援に役立つと思います。
- ・食べる力がある患者様にも「ムリ」と思わず介助ができると思う。
- ・自分が理解することが大切ですが、できる場所を探してみます。NST 活動で食思不振への介入で問題点を見つけるのに KTBC を活用しようと思います。
- ・まずスプーンの使い方、”見る”などの五感を意識することをしっかり活用したいです。
- ・その利用者ひとりひとりの状態に合わせて、まずは環境が大切だと感じました。匂いや目からの情報も含めて食べて頂くようにしたい。
- ・食事面で課題のある人がたくさんいるため（集中できない、ムセる、ため込むなど）、今日学んだことを活かし、おいしく食べられる支援をしたい。
- ・在宅患者さんに生かしたい。
- ・姿勢や一口量、見せ方など患者さん視点にあった関わりがしていけそうであること、食形態や食事回数のステップアップの仕方。
- ・実際に当てはまる方がいたので明日から実施してみます。
- ・ポジショニング、物の配置、環境調整、介助方法。今日のセミナーで実践したこと全て活用できると思います。口を開けない、スプーンを噛んでしまう、円背の患者など実際の症例をもとにした介助方法が参考になりました。
- ・ポジショニングが悪く、食事摂取に影響が出ることがわかったので、肘などに枕を入れて患者さんが食べやすい姿勢を作っていきたい。
- ・月に一回病棟ミーティングで勉強会があるので、そこで他のスタッフに伝えていきたい。
- ・STが介入しない患者様に援助していきたい。
- ・ムセる方、開口悪い方、視線の泳ぐ方に活用したいです。
- ・退院して、30度でゼリーOKという胃瘻の方が3人おられます。レベルアップしていきたいです。

### (基礎)



### (スキルアップ)



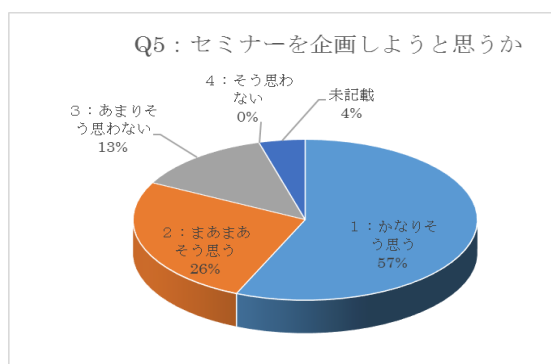
## Q5 セミナーを企画しようと思いますか？

- ・レベルアップさせたい。基本を伝えたい。
- ・仲間を増やしたい。
- ・病院で職員対象の研修会を行っているので、そこで今日学んだことを他の職員にも伝えたいと思った。
- ・自ら行うという点には困難があるため。
- ・すでにチームがあるので、そのチームに協力出来たらと思います。
- ・食欲の低下のある利用者に対しての、食事の形態についても検討したいと思いました。
- ・企画とまではいきませんが、機を見て広めようと思います。
- ・地域の介護施設等の口腔、食の啓発をしながら活動してもらっているが、今後大切なのは技術力の研修だと思うので、今後も企画していけるよう働きかけたい。
- ・ケアマネをしているため、まずは家族に指導していくことが大切かと思う。8・食事介助には職員みんな関わっているため、ほかの職員も体験出来たら入所者の食事介助に対する意識が変わると思う。食事の大切さを共有しながら、入所者様にはおいしく安全に召し上がっていただきたい。

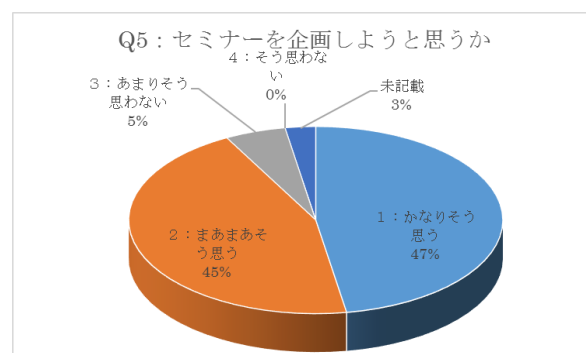
## Q5 (スキルアップコース)

- ・病棟スタッフへ伝達し、技術を習得したいと思います。
- ・まずは自分のスキルを実践していきたい。
- ・人に伝えられるにはもう少し自分が学ばなくてはならないから。
- ・気持ちはありますが、求められたら行きたいと思います。
- ・まだ基本ができていないので、同じ事を何回か繰り返してできるようになりたい。
- ・私なりに技術練習をしたあとに病棟内で行いたい。
- ・病棟でまずは介助方法、ポジショニングを見直したい。
- ・仲間を一人でも増やしていきたいので、伝達していきたい。
- ・みんなが出来るようにしていければと思いました。
- ・30°で介助されることで、見えずに食べていることが分かった。舌のどこに入れるのか、どうやって見てもらうのかを全員でやってみます。
- ・セミナーを企画することは難しいが今日学んだことを自分の中で習慣化していき、退院時の家族指導の場面などで活かせるのではないかと思う。
- ・NSTの勉強会でKTSMとKTバランスチャートについて紹介していく。
- ・訪問先の施設などの勉強会で。
- ・在宅で家族に対しての指導や、アプローチの方法について、事業所内での学習会をしていきたいと思います。
- ・体験研修、症例検討をやっていかないと現場はかわらないと思います、少しずつ地域でネットワークを作っているため地域での勉強会を行なっていきたいと思います。
- ・介護施設と在宅です。(自法人で取り組みたいと思っています。)最近、重度者が介護施設に多く来られるようになりました。

### (基礎)



### (スキルアップ)





**Q6 今後のセミナーで取り上げてもらいたい内容は？**

- ・気切での直接訓練の手順、介助方法。
- ・認知症の患者様に対するの食事について。
- ・今回の内容が非常に勉強になりました。
- ・利用者の口腔環境を改善、賦活できるような口腔ケアを学びたく思います。
- ・何度も実践を行ってスキルアップにつなげたいと思います。
- ・口から食べるための口腔ケアアプローチ
- ・スプーンの紹介
- ・間接訓練など
- ・口腔ケアや口腔体操の方法

**Q7 KTSM 実技認定者の受験を希望しますか？**

希望する 6名  
 希望しない 36名  
 無回答 9名

**(基礎コース)**



**(スキルアップコース)**



職種を超えた、ブドウのように実りの多いセミナーになりました!!  
 受講生の皆様、アドバイザーの皆様、セミナーを支えてくださいましたサポーターの皆様、ご参加、ご尽力ありがとうございました。

そして後日ですが・・・  
 セミナーの様子が山梨日日新聞で、掲載されました!!

仲間をどんどん増やして、地域で口から食べる支援を山梨からも盛り上げていきましょう!!

